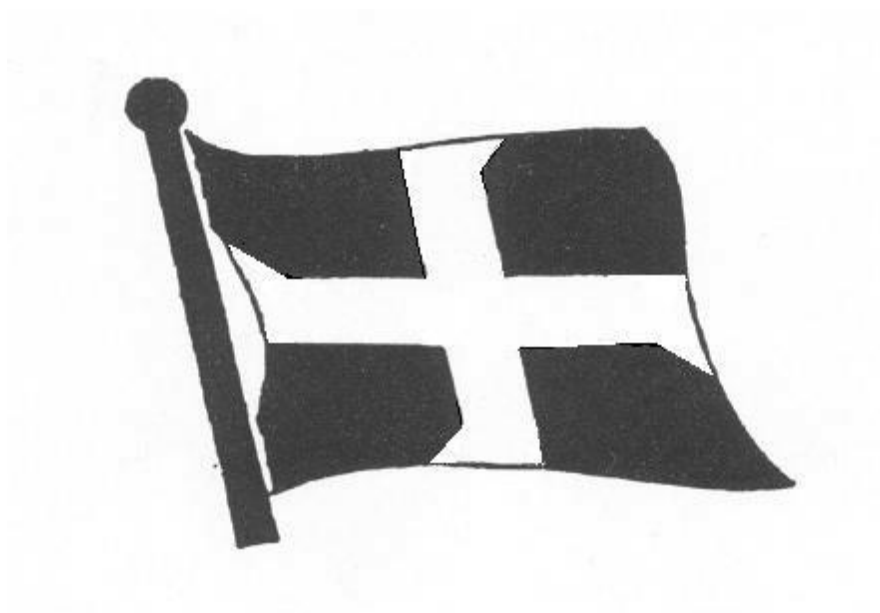


蒼穹 NEWS

No.4

七大戦展望号

令和4(2022)年 7月26日発行



—目次—

②主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶

③七大戦展望

④七大戦日程

①主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶

《主将挨拶》

7月30日、31日に仙台市陸上競技場にて七大戦が開催されます。今年の目標は男女総合優勝です。

男子について、エントリー時点でのランキングでは昨年一点差で総合優勝を争った名古屋大学が一步抜けだし、京都大学、大阪大学がそれに続いております。七大戦は良くも悪くもランキングが覆る試合だと言われますが、今年の京大は守る立場ではなく、全員が攻めてランキングを返していくことが勝つためには必要です。

今の学部生は七大戦の結果は優勝しか知りません。これから七大戦で京大が勝ち続けるためにも、チーム全員でランキングを返して今年も勝ちに行きます。選手、サポートが一丸となる京大の対校戦の戦い方でチーム力を見せつけて、今年も総合優勝できるようにチーム全員で戦います。

蒼穹会の皆様には、感染症の中でも熱いご声援をくださり誠にありがとうございます。まだまだ制限があり、自由に会場にお越しいただけませんが、チーム全員で目標達成できるように戦いますので熱いご声援をよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部主将 眞鍋 聡志

《女子主将挨拶》

七大戦のチーム目標は男女総合優勝としています。女子は名大・東北大が大きくリードしていますが、京大は当日の巻き返しが十分望める位置にいます。

短距離については三好(3)と森尾(3)が中心となり、例年以上にリレーに力を注いできました。表彰台に乗れる実力は十分あります。上位入賞を期待します。

中長距離は3000m 事前ランキング1位の石原(1)、大きく実力を伸ばしている周藤(2)が注目選手です。800m では14 名一組決勝という条件下、新保(2)のフィジカルがどう生きるかも見どころです。中長女子は今季苦しい選手が多いですが、大舞台で勝負をして勢いをつけてきてほしいです。

フィールド種目はとにかくランキングを守ること、他大学の取りこぼしを確実に拾っていくことが役割となります。熱い勝負はもちろん、クレバーな試合運びも必要です。

2回生以上が大きく成長し、多くの新入生も入部してくれたことで、さらに選手層が厚くなったと自信を持って言える女子チームです。京大女子黄金時代の始まりにふさわしい、熱い試合をお届けします。

蒼穹会の皆様には、日頃よりご支援を賜りまして誠にありがとうございます。遠方の会場かつ感染状況が悪化する中ではありますが、現地からも遠方からも熱い応援をどうかよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部女子主将 小西 菜月

《監督挨拶》

7月30(土),31日(日)に弘進ゴムアスリートパーク仙台にて七大学が開催されます。一昨年は中止、昨年は東京大学と大阪大学が欠場となりましたが、今年は3年振りに七大学が一同に集い、争うことができそうで非常に楽しみです。

さて、今回の七大学では男女共に優勝を目指しておりますが、非常に厳しい状況にあります。男子に関しては、名古屋大学と大阪大学がランキング上位に位置しています。京都大学は関西インカレのようなハイレベルな大会で大量得点をもたらすことができる選手が多くいますが、層の薄さが懸念点です。2番手3番手の選手がいかに得点に絡めるかが鍵になるでしょう。女子に関してはフィールド競技では安定して得点することができるでしょう。しかしフィールド競技だけでは優勝には遠く及びません。トラック競技でいかにして得点を重ねるかが重要になっていきます。男女共に優勝目指して、同日は最高の状態で臨みます。

いつも厚いご支援ご声援をくださる蒼穹会の方々に感謝申し上げます。当日は七大学で活躍する様子をお見せできるよう精一杯頑張りますので、どうか変わらぬご支援ご声援のほどよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部監督 長谷川 隼

②七大戦展望

第73回 全国七大学対校陸上競技大会

第33回 全国七大学対校女子陸上競技大会

令和4年7月30日(土)・31日(日)

宮城野原公園総合運動場弘進ゴムアスリートパーク仙台

(仙台市陸上競技場)

～短距離～

男子 100m

男子 100m には吉田(4)山田(2)長田(2)が出場する。吉田に関しては今シーズン 10 秒 7～8 台の記録を安定して出しており、ほぼ間違いなく得点争いに絡んでくることになるだろう。大学に入ってから 1 日に複数本をこなした経験が少ないことが少し不安であるが、名実ともに京大のエースと呼べる走りを期待したい。山田に関しては練習水準を見るに、PB 付近の記録を出す力は間違いなくあると思われる。走りを通じてチームに勢いをもたして欲しい。長田に関しては今シーズンこそ PB に程遠い記録しか出せていないが、7 月に入って急激に調子を上げてきている。11 秒フラットに近い記録を出すことができれば戦線に混乱をもたらすことができるだろう。(高橋惇)

男子 200m

男子 200m には吉田(4)室(4)高橋昂(1)が出場する。吉田に関しては大学初の 200m の試合になるが、持ち前のスピードに加え、日頃の 300m 走り込みで鍛えたスタミナを兼ね備える彼にとってこうしたブランクは無問題だろう。21秒台、ひいては PB 更新を期待したい。室に関しては今シーズン試合にあまり出られていないが、良い感覚を得ながら走ることができていると本人も述べている。同期の吉田と同じく 21秒台での走りを見せて欲しい。高橋昂に関しては 7 月初旬の TT で 9 割程度の出力ながら 21 秒台を叩き出すなど、実力の底が窺い知れないことに味方ながら恐怖すら覚える。今大会は多種目出場となるため、蓄積疲労とも戦いながら最大限のパフォーマンスを見せて欲しい。(高橋惇)

男子 400m

エントリーランキング

10 位 岩本 49“86

14 位 藤浦 50“26

15 位 益田 50“53

益田は 1 組 8 レーンで資格記録上では最も厳しい組ではあるが、九大、東北大の 49 秒選手は今年あまり記録出ていないため、阪大、東大と争って 3 着以上を取ってくるレースになる。怪我明けではあるが直近の京選でのマイルで 1 走 lap50“0 で走り、本人もまだいけると言っていたので大学で 1 番走れている状態である。自身の 49”5 という PB も狙える状態にあり、複数本を同じタイムで纏める能力はあるので、PB2 本で走って得点して欲しい。

岩本は 2 組 4 レーンで組 3 番目の資格記録である。5 レーンの東大は資格記録 49“61 であるが PB は 49”71 であり、着順を争う相手を内から見られる良い位置で走れる。これまで練習でやってきた競って走るという所を十分に活かして着順で予選を通過して、決勝でも競ることのできるレーンをもらって勝つレースを期待する。

藤浦は 3 組 7 レーンで 4～6 レーンが組の中で速い人で、ペースメーカー(PM)にされることが予想される。直近で PB を連発したが、本人は 49 秒を出せていないと意欲満々である。49 秒を出す事に限らず、相手のペースで走らせないためにも、前半から突っ込んで入ってほしい。相手のペースを崩せば着順での通過もあり得るので、予選は着順での通過を目標にしてもらい、決勝でも 49 秒を目指して得点して欲しい。(室)

男子 100mH

男子 110mH は中村鮎夢、3 回生岩崎光起、2 回生五十嵐聖が出場する。

中村に関しては、腰の痛みを長年煩い、しばらく思ったような記録がでていない。組内にランキング上位二人がいて着上りは厳しい状況ではあるが、何が起こるかわからないので4回生最後の七大戦、思いっきり攻めて過去一の姿を見せてほしい。

岩崎は、14秒台が三人もいる組で高レベルな戦いが求められるが、ポテンシャルは今よりもっと高いところにあるように思えるためベストを出して着上りで決勝進出を目指してほしい。懸念点は怪我でここ数日走れていない点だが、走れるまで持っていければ可能性は十分にあると思われる。

五十嵐についても、組内では挑戦を求められる位置にある。京都選手権では思ったように走れなかったかもしれないが、今シーズンになってから PB を更新している勢いある選手だ。七大戦ではうまく合わせて大きく PB を更新してまず決勝を目指してほしい。(田中)

男子 400mH

男子 400mH は岩崎(3)、青柳(1)、高橋昂(1)が出場する。

岩崎は、けがに苦しみ試合等は中々出場できていないが7月頭の TT ではベストに近い記録で走れている。いつもどおり走れば、決勝には上がれると思われる、一つでも上の順位で帰ってくることに期待がかかる。

青柳は、組内に同レベルの選手が複数いて2着を奪い合う形になると思われる。争うことになるのは、他大の1回生になるだろうが、練習でも良く走っており TT で出場枠をつかみ取った勝負強さを生かして着順決勝を目指してきてほしい。

高橋昂については、ランキング2位で、1位とも3位ともタイム差があるので普通であればこのままの順位であろう。過密スケジュールの中での多種目出場はかなり肉体的精神的にきついと思うが、予選については54秒以下しかいないのでリラックスして体力を消耗しないようにし、決勝で暴れてくれることを期待している。(田中)

男子 4×100mR

走順は山田(2)→室(4)→吉田(4)→長田(2)を予定している。2週間前の京都選手権で全日本インカレの標準記録を突破したこともあり、勢いという点では他大学のそれを遥かに凌ぐものがあると思われる。我々には当然1位の座しか相応しくないであろう。

(高橋惇)

男子 4×400mR

走順

益田、高橋、藤浦、岩本

東北以外は4人平均が49秒後半～50秒フラットと混戦が予想される。

京大は東北に勝つために東北と競る走順で組み、最後はどういう並びで来ても岩本に託すというオーダー。4人がきちんと役目をこなせばマイルは強者になれるということは京選で体感したと思うので、東北大と競って千切られた瞬間に後ろから集団が来るという危機感を持って競り勝ってきて欲しい。(室)

女子 100m



蒼穹記録大幅更新の期待もかかる三好(3)

女子 100m には三好(3)齋藤虹(1)が出場する。三好に関しては7月に入ってから練習ベストを更新するなど、かなり状態が上向いている。七大史上類を見ないほどのハイレベルなレースになることが予想される中で、PB 更新だけに留まらず、蒼穹記録の大幅な更新にも期待したい。齋藤虹に関しては入部以来怪我もなく継続して練習を積むことができている。幸い、失うものは何もない挑戦者として挑むことができるので、短距離女子に、引いてはチーム全体に強烈な追い風を生むことができるような走りを仙台の地

で見て欲しい。(高橋惇)

女子 400m

エントリーランキング

7 位 中野 1'00"26

10 位 平松 1'10"00

中野は 1 組 5 レーンで組 3 番目の資格記録を持つ。4 番以降が 62 秒の申請なので 3 着に入り、決勝で 59 秒を出して得点も取って、PB に近づく足がかりにしてほしい。

平松は 2 組 8 レーンで事前ランキング 1~3 位がいて着順では厳しい。初の対校戦で、400m も久しぶりというのもあって不安かもしれないが、出場することは今後の大学陸上において大きな意味を持つと思うので、全力で走って何か感じてきてほしい。(室)

女子 100mH

女子 100mH は小西(4)、新保(2)が出場する。

小西は PB ではランキング 3 位につけているが、今シーズンは上位 2 名より速いタイムで走れているためランキングをひっくり返してきてほしい。多種目出場、七種と違い 100mH が何種目か戦ってからのレースになるので疲労などの蓄積は考えられるが、最後の七大、女子主将としての大活躍を期待している。

新保については、ランキング的には得点圏に入っていないが、あと二人に勝てれば得点できる上、そのうちの一人は今シーズンあまり走れてないようであり十分に得点のチャンスはある。4 月に大学ベストを出して、6 月には追い風参考ではあるが、16 秒フラットで走れている。ここは PB を更新して得点に期待大である。(田中)

女子 4×100mR

走順は森尾(3)→齋藤虹(1)→三好(3)→中野(2)を予定している。メンバーの半数が今年度から入部した新人ということもあり、どのくらいのタイムを出せるかは良くも悪くも未知数である。逆にこうした不確定要素を上手く活かすことのできるようなレース運びを期待したい。(高橋惇)

～中距離～

男子 800m

本種目には山田(4)西川(2)平山(2)が出場する。1 分 51 台の自己ベストを持つ東大と北大の二名が抜きん出ており、続いて今シーズン 1 分 53 台をマークしている北大と東北大の二名が続く。京大三名の目標は得点であり、実に 10 人がひしめく自己ベスト 1 分 54~56 台の争いからいかに抜け出せるがポイントになる。西川、平山の二回生二名は今シーズン大きな飛躍を続けている。下馬評を覆し決勝に駒を進めた京都インカレの記憶は新しく、2 人の大事な試合で決める力、勝負強さはこのような混戦でこそ発揮されるだろう。パートチーフの山田は自己ベストでは劣るものの、4 回生にして練習水準を大幅に上げており、大ベストと決勝進出に期待がかかる。(山田)

男子 1500m

本種目には川口(4)小井(2)西川(2)が出場する。資格記録上位 11 名が 3 分台とハイレベルなレースが予想される。今シーズン 3 分台に突入した西川は 800m との 2 種目出場となる。スパート勝負に出遅れなければ得点は射程圏内だ。悔しい結果に終わった去年のリベンジを果たしたい。初めての対校戦となる小井は伸びのある走りが特徴。いい位置で展開しスパート勝負に持ち込みたい。安定した走りが持ち味の川口は、シーズン序盤の不調から脱し、先月には自己ベストを更新した。冬季練習からここまで学部 1500m を引っ張り、渉外主務として部に尽力してきた影の功労者として、競技でも一花咲かせるのが見たい。展開の予想しにくい本種目であるが、個々人の走りだけでなく、3 人で如何にして良い位置を結果に関わってくるだろう。(山田)

女子 800m

本種目には日野谷(3)新保(2)が出場する。日野谷は長期の離脱から地道なりハビリを継続し七大戦に合わせてきた。まだ万全ではないが、新たに中長女子を引っ張る存在として希望の走りを見せて欲しい。混成パートから力を貸してくれる新保は、七種目目ではない 800m でどこまで走れるか。得点ラインは少し遠いが上位陣に果敢に挑み勝負してきて欲しい。(山

田)

女子 3000m



得点を十分狙える位置にある周藤(2)

本種目には周藤(2)石原(1)が出場する。誰よりも急な成長曲線を描き続けている周藤は昨年マークした自己ベストでランキング8位につけており、数段レベルアップした今なら得点も十分に狙える。レースが動くタイミングで如何に堪えることができるかが勝負の別れ目になりそうだ。石原は入部して以降順調に練習を積むことができています。練習状況からして10分30秒付近で走るだけの力は戻っているはず。久しぶりの試合ということもありその点に不安はあるものの、まずは確実に入賞を目指して、その上でしっかり実力を出し切ることができれば優勝も見えてくる。

(山田)

～長距離～

男子 5000m

男子 5000m には、江端(3)・宮澤(3)・三嶋(2)が出場する。ランキングは順に 16位・21位・20位となっている。14分台のタイムを持ち実力のある選手も多く厳しい戦いが予想される。ただ非常に暑い中でのレースとなり何が起こるかわからない。江端は暑さに強く PB 付近の走りをできれば得点の可能性も十分あり得る。宮澤は対校戦初出走となる。現在は少し調子を落としているが先日の記録会でも PB を更新し実力はついてきた。格上相手に積極的に食らいついていきたい。三嶋は大幅に PB を更新するなど今長距離パートで最も勢いのある選手である。実力を発揮できれば15分台で走る可能性は十分にあ

る。(高橋侃)

男子3000mSC

男子 3000m 障害には、松岡(4)・梅原(2)・斎藤(2)が出場する。ランキングは順に21位・15位・17位となっている。例年得点圏内は9分40秒を切るくらいであり、各選手とも得点獲得という点では厳しい戦いとなる。

松岡はこの種目の経験が少なく七大戦で 2 試合目となる。前半冷静に入って落ちてくる選手を拾っていれば大幅 PB は間違いなし。梅原は先日の 5000m で PB に迫るタイムで走るなど実力が戻ってきた。この種目でも 10 分台前半を目標に PB を更新する走りチームに勢いを与えたい。斎藤に関しては 7 月に入ってから 3000m 障害の練習に重点を置いてきた。10 分 30 秒切りを目指して、最後まで粘り強く走り抜きたい。(高橋侃)

～競歩～

男子5000mW



貪欲に得点を狙いたい池田(4)

男子5000mW には池田(4)、尾原(3)、原(3)が出場する。

池田は練習の消化状況に不安があるものの、フォーム面の課題は改善しつつあり調整を経て十分に戦える状態になると思われる。

尾原は去年の東大戦ぶりの競歩の試合となる。次期幹部として、得点できなかった去年の悔しさを晴らす得点を期待したい。

原は自身 2 度目の競歩の試合となる。フォーム面での懸念点はないので、積極的な歩きを期待したい。

(池田)

～跳躍～

男子走高跳

・資格記録

鴛原泰輝(3) 2m00

山中駿(2) 2m17

田中颯真(1) 1m85



関西インカレでは大ジャンプでチームを鼓舞した鴛原(3)

男子走高跳には鴛原(3)、山中(2)、田中(1)が出場する。名大の有力選手が抜けたことで山中を除く選手のレベルは拮抗したものとなっている。これにより、鴛原と山中は得点を守る戦いを行い、また田中は逆転を狙う戦いをして欲しい。

鴛原については関西 IC 以降調子が下がっていたが、最近はその解消しつつある。関西 IC で更新した PB をさらに更新するビッグジャンプを期待している。田中については順調に体を戻しており、技術も春から大きく向上している。大学に入学してから初めての対校戦なので楽しむ心を持ちつつ下剋上を狙ってほしい。山中は大きなミスをしなければ優勝は確実なので場を支配するような試合運びを見せて欲しい。

(梶)

男子棒高跳

・資格記録

今西直(4) 3m60

深井颯一郎(2) 3m60

吉富文暁(1) 資格記録なし

男子棒高跳には今西(4)、深井(2)、吉富(1)が出場する。現状として得点圏内に入れている選手はお

らず得点ラインも 3m80 になると予想されるが、技術の向上が目覚ましい三選手がエントリーしているので逆転の可能性は十分にある。

今西について調子は最近悪くなく、京都選手権で良いパフォーマンスを出せた場面もあった。是非ともここで四回生の意地を見せて得点ラインに食い込んでほしい。深井については練習でポールを折ってから調子が下向いているようで、さらに膝の調子も少し厳しいようである。しかし去年から大幅に成長した選手であるのでここで PB 更新、そして得点をもぎ取ってきて欲しい。吉富については大学に入ってから棒高跳に転向したが、その技術の習得速度はかなり高く棒高跳選手らしい跳躍になっている。楽しむ気持ちを持ちながら記録への挑戦を行って欲しい。(梶)

男子走幅跳

・資格記録

梶慎介 7m01

齋藤啓 7m06

高橋昂生 7m41

男子走幅跳には梶(3)、齋藤(3)、高橋(1)が出場する。昨年よりも高いレベルの戦いが予想される男子走幅跳であるが、ランキングから点数を返せる種目でもあるためチームとしても重要となる場面である。梶について、この春から助走が安定しておらず、調子は下向きであったが、最近は少し調子が上がっているようである。前日の三段跳びの疲れを残した状態での跳躍となるが、パッションで乗り切って欲しい。齋藤については練習の中で悪くない動きをできているので調子が合えば 7m を大きく超える跳躍もできるであろう。学業との折り合いをつけながらの七大戦となるがその中で大幅な PB 更新に期待である。高橋についてはこの走幅跳の大本命になるが、しかし多種目出場の疲れは大きいように思われる。早々に順位を確たるものにして、試合を優位に運んで欲しい。全カレ標準突破に期待である。(梶)

男子三段跳

・資格記録

梶慎介 15m35

齋藤啓 14m71

山中駿 13m70

男子三段跳には梶(3)、齋藤(3)、山中(2)が出場する。男子三段跳びは上位2人の記録が抜けており、そのほかは拮抗している状況である。逆転の可能性はかなり高いのでこの種目も重要な場面になるだろう。

梶について、先述の通り助走の安定がネックであるが、技術というよりは情熱で跳ぶ選手であるので思い切りよく跳躍してほしい。大幅な PB 更新、全カレ標準突破に期待である。齋藤について、三段跳の技術は関西 IC 以降も向上しており噛み合えば再び PB 更新が期待される。試験の関係上現地入りするのが遅くなってしまうのが心配されるがそんなことでは調子を左右されないタフさを持ち合わせていると思うので華麗な跳躍で観客を魅了してほしい。山中については急遽三段跳にエントリーをすることになったが弛まぬ努力と人並外れたセンスでその跳躍を磨いてきた。久しぶりの三段跳の試合とはなるがチャンス、実力はともに十分あるので得点圏外からの逆転に期待である。(梶)

女子走高跳

・資格記録

小西菜月(4) 1m66

女子走高跳には小西(4)が出場する。今年的女子走高跳は近年稀に見るくらいの高水準の試合が予想され、得点争いとなるとその熾烈さは大幅に増す。いかに少ない本数でかみ合わせることができるかが勝負の鍵の一つとなるだろう。

小西について、関西 IC くらいまでは地面に力を加えることに難があり、力強い跳躍ができていなかった。しかし最近になり地面への加重がうまくいくようになったので、あとは走高跳の跳躍にどのようにかみ合わせることができるかの勝負となる。多種目出場でやり投との兼ね合いもあるが、ビッグジャンプに期待であ

る。(梶)

女子走幅跳

・資格記録

小西菜月(4) 5m07

新保歩(2) 4m61

女子走幅跳には小西(4)、新保(2)が出場する。今年的女子走幅跳もレベルが高い戦いが予想される。まず三本で好記録を出しエイトを決められるか、そして高レベルな戦いの中で得点圏内に滑り込めるかが鍵となる。

小西について、前述の通り動きは噛み合ってきているのでそれを走幅跳に活かせば得点も夢ではない。多種目出場の疲労はかなり大きいと思われるが、女子主将としての意地を見せて欲しい。新保については、短距離の練習に参加してから走りがかかなり洗練された。走幅跳の助走にかみ合わせることができれば大幅な PB 更新も期待できる。新保も他種目との兼ね合いがあるので、少ない本数で勝負を決められるよう頑張してほしい。(梶)

～投擲～

男子砲丸投



負けられない優勝争いに挑むこととなる眞鍋(4)

男子砲丸投には今西(4)眞鍋(4)安藤(2)が出場する。眞鍋は名大、中村(4)との優勝争いが予想される。総合優勝を争う相手との勝負に勝ちきって自身の持つ京大記録の更新に期待したい。今西は資格記録では8番手。9m台の記録の選手は多くおり、10mを投げると5位まで狙うことができる。PBを更新し

て 1 点でも多く得点したい。安藤は専門外ながら出場する。昨年から投擲の力がかなり上がっており、PB の更新が期待できる。少しでも上を目指して戦ってほしい。(眞鍋)

男子円盤投

男子円盤投には眞鍋(4)安藤(2)岡本(2)が出場する。眞鍋は資格記録 1 位で、確実に優勝したい。40mをまだ越えられていないが、力はあるため記録も狙う。安藤は冬季から七大戦を意識して練習を重ねてきた。その成果が最近の練習で見えつつあるため、関カレ B 標準の 36mを目指して戦い抜きたい。岡本は七大戦をきっかけに、本格的な円盤投の練習を始めた。長い手足を活かして将来性を感じる投げをしており、30mに迫る投擲を期待したい。(眞鍋)

男子ハンマー投

男子ハンマー投には眞鍋(4)安藤(2)岡本(2)が出場する。この種目は七大学で専門としている選手が少なく、資格記録を持っている選手が少ない。また、ランキングも覆りやすい種目になる。眞鍋は関西インカレ以降ハンマー投を中心に練習してきた。名大勢にどれだけ食らいつけるか、この種目でランキングを返すことができるかが鍵になる。安藤、岡本はハンマー投 20m前後の争いを制することができるかどうか重要になる。Top8 ライン、得点ラインもそこまで離れ

女子砲丸投には小西(4)篠田(2)が出場する。今年の得点ラインは 9mを越える高いレベルになると予想される。小西は今年砲丸投の PB を更新し、得点に期待がかかる。10mを越える投擲でランキング上位の東北大の二選手に迫りたい。篠田は今年ウエイトの値も大きく伸び、砲丸投の記録にも期待がかかる。9mを越える投擲で得点を狙う。(眞鍋)

ていないため、投擲の力を発揮して少しでも上を狙いたい。得点が読みにくく、名大との直接の争いになり、1 日目の種目と大きな意味を持つ競技になるため、1 点でも多く稼ぎたい。(眞鍋)

男子やり投

男子やり投には今西(4)眞鍋(4)岡本(2)が出場する。今年のやり投は 50m越えの記録を持っている選手が多く、レベルが高い。今西は京大の 1 番手として 50m付近の top8 を狙いたい。眞鍋はやり投は専門外だが出場する。練習では 40mを越える投擲があり、まだまだ投げられる力もある。4 種目目となるが思い切って上位を狙う。岡本は今季投擲の力を伸ばしてはいるが、記録が出ていない。悔しい思いをぶつけて、この七大戦で目標にしている 50mに近づきたい。(眞鍋)

女子砲丸投

女子砲丸投には小西(4)篠田(2)が出場する。今年の得点ラインは 9mを越える高いレベルになると予想される。小西は今年砲丸投の PB を更新し、得点に期待がかかる。10mを越える投擲でランキング上位の東北大の二選手に迫りたい。篠田は今年ウエイトの値も大きく伸び、砲丸投の記録にも期待がかかる。9mを越える投擲で得点を狙う。(眞鍋)

女子やり投

女子やり投には小西(4)篠田(2)が出場する。小西は多種目出場ながら、ランキング 2 位につけている。東北大の選手が 30mを越える記録を持っているので、接戦にはなれると思うが勝ちきる投げをしたい。篠田は圧倒的な力があるため、優勝は間違いないだろう。全カレ A 標準を狙って他の選手を圧倒する力をみせたい。(眞鍋)

③七大戦日程

第73回 全国七大学対校陸上競技大会
第33回 全国七大学対校女子陸上競技大会

令和4年7月30日(土)・31日(日)

宮城野原公園総合運動場弘進ゴムアスリートパーク仙台

(仙台市陸上競技場)

第1日目

トラック競技				
開始時刻	種目	ラウンド	組一着 + α	出場選手（対校の部のみ記載）
9:30	男女5000m W	OP	1	—
10:10	男女5000m		1	—
10:35	男子5000m		1	—
11:00	女子400m		2	—
11:10	男子400m		9	—
11:50	女子1500m		2	—
12:05	男子1500m		6	—
12:55	女子100m		3	—
13:05	男子100m		20	—
14:10	女子4×400mR		1	—
14:20	男子4×400mR		5	—
15:00	開会式			
16:00	男子200m	予選	3－2＋2	吉田(4),室(4),高橋昂(1)
16:25	女子400m	予選	2－3＋2	中野(2),平松(1)
16:45	男子1500m	決勝	1	川口(4),小井(2),西川(2)

跳躍競技			
開始時刻	種目	ラウンド	出場選手 (対校の部のみ記載)
9:45	男子走幅跳	OP	—
10:00	男女棒高跳		—
11:40	女子走幅跳		—
15:25	男子三段跳	決勝	梶(3),齋藤(3),山中(2)

投擲競技			
開始時刻	種目	ラウンド	出場選手 (対校の部のみ記載)
9:45	男女やり投	OP	—
13:40	女子砲丸投	決勝	小西(4),篠田(2)
15:30	男子ハンマー投	決勝	眞鍋(4),安藤(2),岡本(2)

第2日目

トラック競技				
開始時刻	種目	ラウンド	組一着 + α	出場選手
9:30	男子5000mW	決勝	1	池田(4),尾原(3),原(3)
10:10	男子5000m	決勝	1	江端(3),宮澤(3),三嶋(2)
10:35	男子200m	決勝	1	
10:50	女子3000m	決勝	1	周藤(2),石原(1)
11:15	男子400mH	予選	3-2+2	岩崎(3),青柳(1),高橋昂(1)
11:35	男子400m	予選	3-2+2	藤浦(4),岩本(2),益田(2)
12:00	女子100m	予選	2-3+2	三好(3),齋藤虹(1)
12:10	男子100m	予選	3-2+2	吉田(4),山田(2),長田(2)
12:30	男子110mH	予選	3-2+2	中村(4),岩崎(3),五十嵐(2)
12:55	男子800m	予選	3-2+2	山田(4),西川(2),平山(2)
13:20	男子4×100mR	決勝	1	室(4),吉田(4),長田(2),山田(2)
13:40	男子400mH	決勝	1	
13:55	女子400m	決勝	1	
14:05	男子400m	決勝	1	
14:20	男子3000mSC	決勝	1	松岡(4)・梅原(2)・斎藤(2)
14:45	女子100m	決勝	1	
14:55	男子100m	決勝	1	
15:10	女子800m	決勝	1	日野谷(3),新保(2)
15:25	男子800m	決勝	1	
15:40	女子100mH	決勝	2	小西(4),新保(2)
16:00	男子110mH	決勝	1	
16:15	女子4×100mR	決勝	1	三好(3),森尾(3),中野(2),齋藤虹(1)
16:30	男子4×400mR	決勝	1	

跳躍競技				
開始時刻	種目	ラウンド	出場選手	
9:45	男子走幅跳	決勝	梶(3),齋藤(3),高橋(1)	
10:00	男子棒高跳		今西(4),深井(2),吉富(1)	
10:30	女子走高跳		小西(4)	
12:30	女子走幅跳		小西(4),新保(2)	
13:45	男子走高跳		鴛原(3),山中(2),田中(1)	

跳躍競技				
開始時刻	種目	ラウンド	出場選手	
9:45	男子砲丸投	決勝	今西(4),眞鍋(4),安藤(2)	
10:00	女子やり投		小西(4),篠田(2)	
10:30	男子円盤投		眞鍋(4),安藤(2),岡本(2)	
12:30	男子やり投		今西(4),眞鍋(4),岡本(2)	



蒼穹ニュース 令和4年度 第4号
令和4年 7 月 26 日発行

発行所: 京都大学体育会陸上競技部
編集者: 紀之定玲司・平山悦章・益田棕多(副務)
特別協力: 高重広・平林里和子・高山兼輔(学連員)
写真担当: 五十嵐聖・松本良平・三嶋友貴(写真係)

陸上競技部 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>
陸上競技部記録 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku.htm>
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>
メールアドレス hiryama.yoshiaki.33c@st.kyoto-u.ac.jp (平山)